

## 前回の懇談会における委員意見について

## 1 懇談会における意見

No.	項目	意見	回答, 対応案
1	目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次行政改革の成果について、取組のスタート時と比較して、想定以上なのか、想定以下なのか、明確にすべきではないか。</li> <li>・第3次行政改革の期間中、権限移譲が進み、国や県から多数の事務が市におりてくることになったが、具体的にどのようなものが新たに市の事務となったか、明らかにしてほしい。</li> <li>・権限移譲により、市が責任や役割が増すのに対し、「地域自治の確立」と称して、そのまま地域におろしてしまっは、結局、二重構造、三重構造が生まれてしまい、地方分権の主旨に逆行するのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現大綱では目標を設定していない。</li> <li>・第4次では目標を設定することも検討したい。</li> <li>・第2回懇談会で説明資料を配付する。 ⇒ <b>参考資料 2</b></li> <li>・地域自治とは、行政サービスを市民に身近なところで展開することを目指した取組であり、国等から受けた権限をそのまま地域に移譲することを目指したものではない。</li> <li>・第4次大綱では、上記のように、明確に記載したい。</li> </ul>
2	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定性評価（体系の柱ごとの現状と課題）について、どのような基準で評価しているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動計画に掲げた事業について、毎年度、庁内へ進捗調査を実施。その他、意識調査の結果を参考にしている。</li> <li>・評価のあり方（庁内評価と市民評価の組み合わせなど）について、今後、検討したい。 ⇒ <b>参考資料 3</b></li> </ul>

No.	項目	意見	回答, 対応案
3	改革の方策・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改革が進むと、市民サービスが向上する場面より低下する場面の方が多い。また、市民協働の推進により、一方的に仕事を押し付けられたと感じている住民は、行政に対して、潜在的に不満を抱いている。</li> <li>・これらのことから、行政改革の進行により、市民満足度は下がることが一般的。</li> <li>・行政改革の取組を強力に進めると、ある程度までは経費削減が得られる。だから、それが本当に適正なことなのかどうかということについて、何らかの手法で確認することが必要。</li> <li>・評価の実施や進捗度の確認について、新たな行政改革大綱の策定においては考えていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「改革の徹底的な推進」のような強い論調を控える、取組評価のあり方を検討するなど、今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
4	推進方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度ごとの達成状況を整理すべき。</li> <li>・P D C Aサイクルにより、計画の進行管理を行い、翌年度の取組に反映させるべき。</li> <li>・市民の声を吸い上げる手法として、「市民満足度調査」、「クレーム対処法」を重視すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大綱の進行管理の手法を明確に定める、市民意見や声を重視する姿勢を盛り込むなど、今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>

No.	項目	意見	回答, 対応案
5	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地区行政の推進」について、行政側の取組（体制整備）は進んだのかも知れないが、住民側の取組（「中身」の部分。地域のまちづくり）については、地域によって温度差がある。</li> <li>・新たな大綱では、この点こそ、取組の柱として注力していくべきと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性や実情に応じた取組を進める姿勢を明確にするなど、今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
6	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改革一辺倒では市民に受け入れられない。</li> <li>・これまでの取組で、効率性の向上はある程度、達成されているはず。これからはセーフティーネットを確保することにも注意した行政改革を進めるべき。</li> <li>・改革をある程度進めて、さらに進めることは難しい。たとえば、庁内の横の連携を強化し、庁内で重複する事務事業を統合・一元処理するなど、改革の取組の「着眼点」を新たに持つてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削減のみを追求するのではなく、従来には持たなかった新たな発想で、取組の切り口を模索するなど、今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
7	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から仕事を押し付けられ、疲弊している地域や市民があることは事実。協働の前提として、市民を重んじる姿勢が不可欠。</li> <li>・市民との信頼関係を築き、その結果、市民が自分のものだと感じる事ができる行革を進めるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民の視点を重視する」、「市民との共生を目指す」などを明確に示すなど、今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>

No.	項目	意見	回答, 対応案
8	改革の柱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改革の視点に「市民の視点」があるべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民満足の向上を目指して行政改革の取組を進めていることを強調するなど, 今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
9	目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次行革の成果検証が不可欠。3次で達成できなかったことを, そのまま4次で取り組んでも同じ結果になる。結果分析を踏まえて, 新大綱を策定すべき。</li> <li>・上位概念である第5次総合計画からの目標設定が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組成果の検証, 成果指標の設定について, 今後の策定作業を進める上で, 検討をしていきたい。</li> </ul>
10	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政にも十分注意しながら, 一定の枠内で市民ニーズをとらえた新規事業・拡充事業にも積極的に取り組む, その両立が重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健全財政の確保と市民ニーズをとらえた事業の積極的な展開の両立を目指すことを強調するなど, 今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>

## 2 懇談会以降, F A X等で寄せられた意見

No.	項目	意見	回答, 対応案
1	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民目線での正確評価制度を確立すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
2	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日々の業務改善と100年に一度の改革」, 「市民の代表としての矜持(誇り)」を重視した取組が有効ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
3	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部門別の削減効果, 増加効果を明確にしてほしい。</li> <li>・全庁的なサービスの点検が必要。 (高齢者サービスへの所得制限の設定等)</li> <li>・職員数削減に伴う部課ごとの負担の不均衡の是正</li> <li>・行革の取組や各種サービスについての市民へのPR強化</li> <li>・第5次総合計画を基盤とした行政改革大綱とすべき。</li> <li>・ふるさと納税を得られるような, 魅力的なまちを目指してほしい。</li> <li>・異動間隔を長くし, 「スペシャリスト」(専門家)を育成すべき。</li> <li>・高齢者の知識や活力を活かしたまちづくりを意識すべき。</li> <li>・職員一人ひとりの改革意識を高める人材育成システムの確立が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回懇談会で説明資料を配付する。 ⇒ <b>参考資料4</b></li> <li>・今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>

No.	項目	意見	回答, 対応案
4	改革の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体職員が「ゼネラリスト (いろいろな分野の知識や能力を持つ)」であり, 専門性に欠けるという点を是正することが人材育成の基本。</li> <li>・知識人間ではなく, 知恵人間の育成を目指すべき。</li> <li>・雇用形態の多様化, F A宣言の導入, 幹部職員への年俸制導入, 職員の異動に自己推薦, 住民推薦を認める, 採用・昇任を広域単位で実施 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の策定作業を進める上での参考としたい。</li> </ul>
5	要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単年度会計を見直してはどうか。年度末の道路工事には辟易している。余ったものは余ったもので, 翌年度, 必要とされる部分に投入できれば, 市民に受け入れられるのではないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御意見として受け止め, 今後の行政運営を進める上での参考としたい。</li> </ul>